

自 2024年4月 1日  
至 2025年3月31日

# 2024年度 事業計画書

公益財団法人ハーモニィセンター

# 目次

はじめに	1
1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営	2
1-1 ポニーキャンプ®・野外体験キャンプ・HAC	2
1-2 カウンセラーの募集とトレーニング	2
1-3 移動動物教室	3
1-4 蓼科ポニー牧場	3
1-5 相馬ポニー牧場	3
1-6 小貝川ポニー牧場(小貝川三次元プロジェクト)	4
1-7 新拠点整備に向けた取り組み	4
2. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の受託管理	5
2-1 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の1年目)	5
2-2 水元スポーツセンター公園子供動物広場(受託・1年契約)	5
2-3 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の1年目)	6
2-4 板橋こども動物園(指定管理・指定期間5年の5年目)	7
2-5 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)	7
3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及	8
4. 川べり環境の整備及び活用	8
5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進	9
6. 社会教育に関する調査研究の推進及び研究成果の普及	9
7. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信	10
7-1 機関紙「THE HARMONY CENTER」	10
7-2 WEB サイト・SNS の運用	10
7-3 パンフレット・チラシの活用	10
8. 各種セミナー等	10
9. 法人運営にかかる業務	10
9-1 職員等の研修	10
9-2 会議等の実施	11
9-3 運営体制強化に向けた取り組み	11
9-4 他団体との連携等	11
9-5 日常法人事務	11
【資料】法人ハーモニセンター中期計画 2024-2028～RIDING FOR ALL をさらに広げる～概要	12

## はじめに

ハーモニセンターは、「公益財団法人ハーモニセンター中期計画 2024-2028～Riding for Allをさらに拡げる～」を2023年12月に策定しました。コロナ禍は事業の縮小を余儀なくさせただけでなく、社会における孤立の問題を浮かび上がらせ、体験活動の重要性やあり方を問い直すきっかけとなりました。その影響が徐々に小さくなり、事業活動の回復が実感できるようになったタイミングで、改めてハーモニセンターの事業の価値を見直し、5年間の目標を設定しようというのが、この中期計画です。

「Riding for All」は、ハーモニセンターのモットーのひとつとして掲げているものですが、「All」が示す範囲をさらに拡げていこうというのが、この計画の中心となる考え方です。コロナ禍からの回復を盤石なものとしながら、「All」に近づけるよう、より広い地域、より広い対象に活動を届けること、そして、それを実現する組織基盤の強化を進めることを目標としています。

この年度は、中期計画推進の初年度となります。

キャンプは、蓼科ポニー牧場でのポニーキャンプ®、ファミリーキャンプほか、登山、スキーなど多様なキャンプを行います。また、里親子を対象としたファミリーキャンプなどのスペシャルニーズキャンプにも、助成団体との協力の下で取り組みます。

自治体より受託運営する動物広場では、碑文谷公園こども動物広場と相模原麻溝公園ふれあい動物広場の2か所で新たな指定管理期間(5年間)が始まります。より多くの方々に利用していただくとともに、その魅力を広く伝え、「ハーモニセンターでなければならない」と思ってもらえる、特長ある運営が求められます。

国際事業については、昨年、4年ぶりに再開したモンゴル騎馬トレッキングツアーは、2コースに増やして実施します。また、日独青少年相互交流計画についても、ドイツ青年の受け入れから直接交流事業を再開します。

前年度にバリアフリー対応居室のある新宿舎が完成した蓼科ポニー牧場のリニューアルは、引き続き推進します。一方、東日本大震災以降、事実上の閉場となっていた相馬ポニー牧場については、プロジェクトチームを設置し、正式な閉場に向けたプロセスを進めます。そして同時に、新拠点開設に向けた取り組みも継続して進めます。

この年度も、キャンプを中心とする自主事業と6つの動物広場の受託運営という、事業の大きな枠組みに変化はありません。しかし、各事業それぞれに、“より広い地域に”“より広い対象に”という取り組みが含まれます。その実践には、医療や福祉、心理など、ハーモニセンターが持っていない資格やノウハウも必要となりますし、資金的な援助が不可欠な場合も多くあります。「Riding for All」をさらに拡げるために、それぞれの領域に専門性を持つ団体・専門家や自治体、助成団体等との協働を積極的に進めます。

その取り組みを通じてハーモニセンターのよさをきちんと伝え、活動の参加者をさらに増やすとともに、応援してくれる人、企業、団体を増やしていきたいと考えています。

# 1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営

## 1-1 ポニーキャンプ®・野外体験キャンプ・HAC

ハーモニーセンターでは1972年に実施した第1回北海道とかちポニーキャンプに始まり、50年以上にわたり、夏休み等の長期休みを中心に子供達(5歳～中学校3年生)を対象としたキャンプを実施している。この年度も、ポニーキャンプを中心に、家族を対象としたファミリーキャンプやスキー・登山・スケート・野外炊事などの野外活動キャンプといったさまざまなタイプのキャンプを実施する。

新型コロナウイルス感染症の影響はほぼ受けなくなった状況にあるので、キャンプごとの受け入れ人数や運営方法、プログラムの内容等を適宜見直し、より多くの子供達に、自己肯定感を高めるきっかけとなるキャンプを提供する。

また、これ以外にも、社会的養護下にある子どもを養育する家庭を対象としたファミリーキャンプなど、社会課題の改善につながるようなキャンプに積極的に取り組むほか、要望に応じてカスタマイズした受託キャンプも実施する。

ポニーキャンプ	21 コース GW(2)・夏(9)・冬(3)・春(3)・週末(4)
ファミリーキャンプ	7 コース
野外体験キャンプ	10 コース 登山(1)・野外(4)・スキー(3)・スケート(1)・
HAC/日帰り	適宜

主催キャンプ・HAC(代々木事業所担当分)

## 1-2 カウンセラーの募集とトレーニング

カウンセラー(青年ボランティア)は、子供達と対等な目線で向き合い、寄り添う存在として、ハーモニーセンターのキャンプをはじめとする活動に不可欠な存在である。新型コロナウイルス感染症の影響の減少とともに活動機会が増える中で、活動内外でのカウンセラー間の関係構築も少しずつ進んでいる。積極的に募集を行うと同時に、適切な研修や交流の機会を設け、質の高い事業運営環境を構築する。

研修については、キャンプ運営に必要となる技術的な研修はもちろん、セーフガーディング(関わる人すべての安全保護)に関する研修も行い、子供達はもちろんカウンセラーをも守れる仕組みづくりをいっそう進める。また、すでに開始しているカウンセラー活動支援のマンスリーサポーター(継続寄付)募集などを通じて、カウンセラー達がより主体的に、そして継続的に活動できる環境づくりを強力に進める。

カウンセラー募集	オンライン合同説明会の実施(5～6月に 6 回程度) 個別説明は随時対応 ボランティア募集サイト activo(アクティボ)での募集 大学・専門学校での説明会の実施・SNS を通じた告知
カウンセラー研修	蓼科宿泊研修(6月・11月・2月/計5回) その他、乗馬や野外スキルを身に付けるための日帰り研修を複数実施するとともに、児童心理や自己理解等について学ぶ機会も設ける。

### 1-3 移動動物教室

移動動物教室は、ポニー乗馬やモルモット・やぎ・羊・うさぎ等の小動物とのふれあいを学校・幼稚園・地域のイベント等に届ける事業である。前年度は、商店街のお祭りや、緑道再開発の実験的なイベントや、公園利活用を検討する実験的なイベントに動物を連れて行くなどし、単なるふれあいイベントの枠を超えた地域コミュニティ醸成のための非常に有効なプログラムという認知も広がってきている。この年度も、地域活動を行う団体等にも積極的に働きかけ、実施の機会を広げる。

また、全国乗馬倶楽部振興協会の助成を受けて実施する移動動物教室については、東京都多摩エリア・長野県茅野市・神奈川県相模原市・栃木県宇都宮市を中心に展開する。

### 1-4 蓼科ポニー牧場

自主事業のポニーキャンプの他、年間を通して乗馬レッスン、障害者乗馬レッスン、引馬を実施するほか、地元の子供達を中心とする「蓼科ジュニアポニークラブ(TJPC)」、不登校児のための居場所事業「ひだまりファーム」、ハーモニーセンターの子供達のための乗馬大会「ポニーライダーズカップ」、地域還元事業「牧場フェスティバル」などを実施する。また、カウンセラー活動OBや卒業生達の集う場所としてOB会を受け入れる。あわせて、法人で使用するポニーの育成、調教を行うほか、移動乗馬教室、スタッフ・カウンセラー研修等の活動拠点としての機能を果たす。連携・協働協定を結ぶばこあぼこの運営する「牧場ようちえんばっこ」へ活動場所を提供し支援するほか、新たな取り組みとして、民間企業と共同で企業研修の受け入れ事業に着手する。

2023年11月に竣工した新宿舎に続いて、助成金を活用した牧場リニューアル計画を複数年にわたって進める。このとき、蓼科ポニー牧場を「ポニーキャンプの場」「ポニーの供給基地」「実験的的事业の場」として明確に位置づけ、その目的にかなうリニューアルを進める。60年余の歴史に根ざした多様なステークホルダーの意見を広く聞き、協力を得ながら、ハーモニーセンターのフラッグシップとしての牧場づくりを目指す。

主な事業	ポニーキャンプ 21コース GW(2)・夏(9)・冬(3)・春(3)・週末(4) ファミリーキャンプ 7コース 蓼科ジュニアポニークラブ(TJPC) 2回/月(8月を除く) ひだまりファーム 毎週火曜日(長期休暇期間除く) ポニーライダーズカップ 10月19日(土)-20日(日) カウンセラー研修 5コース 牧場フェスティバル 11月16日(土)
------	--

### 1-5 相馬ポニー牧場

2011年の東日本大震災以降、事実上の閉場となっていた相馬ポニー牧場について、プロジェクトチームを設置し、正式な閉場に向けたプロセスを進める。法人にとっての相馬ポニー牧場の歴史的価値を鑑み、プロジェクトチームでは関係者の参加できるプログラムの開催等を検討する。

#### 1-6 小貝川ポニー牧場(小貝川三次元プロジェクト)

年間を通じて、乗馬レッスン、障害者乗馬、高齢者乗馬、引馬などを行うほか、川べりという地の利を活かして、カヤック教室などの水のプログラムをあわせて提供するほか、要望に応じてカスタマイズしたデイプログラムを受託運営する。また、前年度のモンゴル騎馬トレッキングツアーの復活に伴い、外乗での速歩・駈歩体験の場として、河川敷を用いた騎乗は需要が見込めると考えている。

2001年から使用してきた仮設厩舎の老朽化が進んでいるが、収益性や建築許可の課題などがあり、建て替えを含めた整備の見通しは立っていない。

主な事業	ポニーふれあい 引馬、レッスン、外乗、障害者乗馬、高齢者乗馬 ポニー教室・ポニープログラム団体利用 ポニー研修 出張乗馬教室・ポニーステイ カヤック教室・川遊びプログラム キャンプ(日帰り) 河川敷管理
------	--

#### 1-7 新拠点整備に向けた取り組み

ハーモニーセンターのプログラムを広く、多くの子供達に届けられるよう、中長期的視点を持って新拠点整備に向けた取り組みを進める。これには、キャンプが行える首都圏の施設や都市型の居場所機能を持った施設、既存の施設に新たな機能を加えたものなど、多様な形態が考えられる。

また、法人のいっそうの安定した経営のために、長期的な視点に立って新たな施設運営受託の可能性を模索する。

いずれの場合も、ハーモニーセンター単独での運営に限定することなく、各拠点の目的に見合う効果が発揮できるよう、それぞれの地域で特定分野の知見・経験をもつ既存団体等との連携を積極的に進める。

## 2. ポニーキャンプ<sup>®</sup>・ポニークラブ<sup>®</sup>・動物広場・牧場等の受託管理

地方自治体等の開設した施設を受託運営し、各自治体と連携しながら、引馬や小動物とのふれあい、ポニー教室、動物クラブなどを提供する。合わせて、中学生等の職場体験、大学生・専門学校生の実習・研修の受け入れも行い、青年のキャリア教育への貢献を果たす。

### 2-1 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の1年目)

所管課	目黒区都市整備部道路公園課
面積	3,310 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(6頭)・ウサギ・モルモット・イヌ・カメ
主な事業	ポニー乗馬(引馬) 小動物とのふれあい ポニー教室 個人:小中学生 団体:障害児者グループ、健常児者グループ、幼稚園・保育園・学校など 動物クラブ 各種受け入れ(ボランティア、中学生職場体験、大学生の研修など) 各種イベントの実施(ポニーまつり、ミニイベント) 碑文谷ポニーキャンプ

指定管理者として新たな5年間の1年目となるこの年度は、これまで以上に「楽しみながら、誰もがいつでも生きる力を育むことが出来る場所」「子ども達の居場所」としての施設運営を目指す。基本事業(ポニー乗馬、小動物とのふれあい、ポニー教室、動物クラブ)を着実に行いつつ、「誰もが」の対象範囲を広げ、「いつでも」の期間を長くする取り組みを行う。具体的には、医療的ケア児や重度心身障害児を対象としたスペシャルプログラムの実施、いつでも参加できるという動物クラブの特性を活かした不登校児の積極的受け入れ、ポニー教室や動物クラブ卒業生を対象としたボランティアチームの組織化、一人でも家族でも老若男女参加が出来るイベントの開催などである。

新型コロナウイルス感染症の影響が減じた状況だからこそ、都市公園でこれらの活動を行い、生きる力を育む居場所づくりの意義がますます高まっている。その価値を確認し、改めて歩み出す一年としたい。

### 2-2 水元スポーツセンター公園子供動物広場(受託・1年契約)

所管課	葛飾区教育委員会地域教育課
面積	3,263 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(12頭)
主な事業	ポニー乗馬(引馬) ポニー教室 個人:葛飾区在住・在学の小学校1年生から中学校3年生 団体:区外を含む中学生以下の団体

障害児乗馬教室(パートナーアニマル教室) 個人:葛飾区在住・在学・在勤の小学校1年生から20歳 団体:中学生以下の団体(区外利用可能だが中学生以上の新規受付は停止) イベントの実施 「区民感謝乗馬デー」(年2回)「こどもまつり」「クリスマスホースショー」「マラソン大会」等 移動乗馬教室 「葛飾区子どもまつり」(4月)「かつしかスポーツフェスティバル」(10月) 介護予防乗馬(65歳以上を対象とした乗馬教室)年間4期(1期3回)
--

新型コロナウイルス感染症によるさまざまな制限が続いたことで、子供達の体力が以前に比べてやや低下している印象がある。丈夫な身体と健全な精神を涵養できるよう、活発なプログラム運営に努める。その際、職員は子供達を取り巻く環境を理解するとともに、対面する子供達の様子を観察し、押し付けではなく子供達の状況やニーズに合った教育の場・機会を提供することが責務であると考えている。

また、保護者や地域社会と緩やかに連携し、地域で子供を育てる環境づくりにも努めたい。

### 2-3 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の1年目)

所管課	相模原市環境共生部公園課
面積	15,000 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(15頭)・ヤギ・ヒツジ・モルモット・ウシ・ブタ・リスザル・マーモセット・ミーアキャット シマリス・ハイラックス・シカ・プレーリードック・ウサギ・鳥類(クジャク・チャボ・オシドリ等)
主な事業	ふれあいコーナー 展示コーナー ポニー乗馬(引馬) ポニー教室(市内在住・在学の小学生から中学生) 障害児ポニー教室(市内在住・在学の小学生から中学生) 移動動物教室(市内施設及び団体対象) 動物フェスティバル(年2回) ポニーボランティア

この年度は、指定管理者としての新たな5年間の1年目となる。今回の指定管理者の選定過程では、運営のよい部分を積極的に発信し、広く伝えていく必要を痛感した。着実により運営を進めるとともに、積極的な情報発信や利用者への働きかけを行いたい。

プログラムについては、コロナ禍前の状態に戻りつつあるので、円滑な運営に努め、より多くの利用者を迎えたい。また、2年間の試行期間を経て、登校をためらいがちな児童・生徒のためのプログラムを本格的に始動させ、社会教育的要素のある「居場所」としての役割を担える施設としていきたい。



## 2-4 板橋こども動物園(指定管理・指定期間5年の5年目)

所管課	板橋区土木部みどりと公園課
面積	本園 1,907 m <sup>2</sup> 高島平分園 583 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(9頭)・ヤギ・ヒツジ・モルモット・ウサギ・シカ・カメ・インコ・リス
主な事業	ヤギ・ヒツジの放し飼い、ふれあい ヤギの屋根のぼり、橋渡り モルモットのふれあい ポニー乗馬 引馬、親子乗馬、高齢者乗馬、障害者乗馬 ポニーの馬車 こども動物クラブ ポニー教室、親子ポニー教室 出張動物園、ふれあい 団体受け入れ 幼稚園・保育園・学校等の団体の受け入れ イベント開催(冬のミニイベント・ヒツジの毛刈り・公園祭り・ツリークライミング等) 板橋こどもキャンプ 施設や企業との協働企画 軽食やお土産の販売、キッチンカーの誘致 公園清掃、樹木管理

新型コロナウイルス感染症の影響が残っていたことや夏の猛暑の影響で、前年度の来場者数は回復が十分に進んでいなかった。この年度は、利用者アンケートなどで得た声を反映し、X や Google マップ、ブログ等 SNS を存分に活用し、分かりやすく身近で親しみやすい情報発信を心がけ、より多くの方に利用していただけるように努める。

あわせて、前年度に好評であった近隣の団体や企業、学校などとの協働によるイベントを積極的に開催し、それぞれの特色を活かして、子育て中のファミリーや不登校児、障害者、高齢者など、多様な対象の支援につながる取り組みを行う。

また、この年度は指定管理の最終年であるため、これまでの振り返りや事業の見直しなどを十分に行い、引き続き指定管理を担えるよう尽力する。

## 2-5 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)

所管課	葛飾区都市整備部公園課
面積	2,100 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(5頭)・ヤギ・ミニブタ・ウサギ・アカリス・リスザル 鳥類(クジャク・ウコッケイ・オシドリ等)
主な事業	ポニー乗馬(引馬) 小動物とのふれあい ポニー教室(年3回/1回につき5日間)

	動物クラブ 各種イベントの開催 移動動物教室(高齢者施設や盲学校など) 幼稚園・保育園・学校等の団体の受け入れ 中学生職業体験の受け入れ
--	--

前年度は、新型コロナウイルス感染症の影響は減少したが、夏の猛暑の影響で利用者が大きく減少した。この年度は、猛暑の影響を受けにくいプログラムを設けるなどし、利用者の回復に努めたい。

また、この年度は試行的に隣接する東京都立農産高等学校の実習及び授業の受け入れ(1回2時間、年間6回、12名を予定)を行うこととなった。実施状況により判断し、来年度以降本格的にカリキュラムを組む予定となっている。

建物の老朽化が進んでおり、今後、建て替えの検討が進むことが予想される。計画作成の際に意見を求められても十分に対応できるよう、着実な運営を進めながら、地域ニーズの把握にも努めたい。

### 3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会の助成を受け、東京都多摩エリア・長野県茅野市・神奈川県相模原市・栃木県宇都宮市を中心に、巡回ポニースクールを実施予定。実施にあたっては、単なる一過性のイベントとせず、地域コミュニティの醸成に役立てるよう、各地域の団体等とも協力して進める。

前年度実施した、社会的養護下にある子どもを養育する里親家庭を対象としたファミリーキャンプを、この年度も、社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団の協力を得て実施する予定である。また、動物介在教育の特長を生かした、学校に行きづらさを感じる子供達の受け入れにも積極的に取り組むなど、児童福祉の分野での貢献も進めたい。

医療的ケア児支援法の施行を受けて需要が高まっている医療的ケア児を対象としたポニーとのふれあいについては、医療従事者の協力を得て、碑文谷公園こども動物広場で試験的に医療的ケア児とその家族を対象とする事業を行うほか、助成金を活用して動物広場外で同様の事業を行うことを検討している。

### 4. 川べり環境の整備及び活用

小貝川ポニー牧場の脇を流れる小貝川の河川敷を引馬や外乗、カヤック教室、川遊びの場として、また馬の放牧場など体験の場や馬の飼育管理の場として活用を続けている。

川べり環境の整備については、牧場開設当初より藤代まちづくり協議会と共同してフラワーカナル(河川敷の約1.1kmにわたる花壇)の整備や草刈りを行ってきたが、前年度に藤代まちづくり協議会が解散した。現在は、小貝川の自然環境の中で、水・陸・空の3次元を活用し、大人も子供も、障害者も高齢者も時間と場所を共有し、遊び、学び、交流するという趣旨の「NPO小貝川プロジェクト21」の一員として、小貝川事業所の職員とポニー教室の参加者とその保護者が協同でポピー・コスモスの種蒔きや河川増水後のゴミ拾い活動を実施。また、彼岸花の株分けを行い、2,000株を超える花が一斉に咲く様子は見物で徐々に認知度を増している。

前年度に再開した E ポート大会では、ポニー教室の参加者とその保護者から 50 名を超えるエントリーがあるなど盛況で、地域住民との交流の機会として引き続き実施する。

主な事業	引馬・外乗 カヤック教室・水遊び ゴミ拾い・草刈り・水辺の体験教室 フラワーカナル種蒔き・E ポート大会
------	---

## 5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進

前年度に風の旅行社と共同で4年ぶりに実施したモンゴル騎馬トレッキングツアーは好評を得た。そこで、この年度は2コースを設定し、参加対象をキャンプや動物広場等、ハーモニイセンターに日常的に関わる子供達に広げて実施する。

日独青少年相互交流計画は、新型コロナウイルス感染症の影響や30年以上交流を牽引してきたルドガー・フォンディックさんの闘病・逝去の影響もあり、数年にわたって休止状態が続いていた。前年度より再開に向けた検討を続けており、交流テーマ等を再構築し、まずはドイツ参加者の日本への受け入れから計画を再開したい。

また、かつて春休み期間に行われていた軽乗プログラムの復活に向けて準備を進めるとともに、2年連続で行っているドイツ国際平和村のオンラインイベントも継続実施していきたい。

モンゴル騎馬トレッキングツアー	A コース 8月2日～8月7日(定員16名) B コース 8月16日～8月21日(定員16名)
日独青少年相互交流計画	ドイツ▶日本 10月14日～10月26日(ドイツ参加者15名程度)

## 6. 社会教育に関する調査研究の推進及び研究成果の普及

全国乗馬倶楽部振興協会、JRA日本中央競馬会、馬という領域ネットワーク、その他のグループが乗馬の効用、馬の活用状況に関連して実施する研究集会、調査、交流会などに積極的に参加・協力し、ハーモニイセンターが蓄積してきたノウハウ、成果等を積極的に発信すると共に、参加職員の資格取得、研修、情報収集にも努める。また、これらのネットワーク、そしてカウンセラーOB/OGらのネットワークを活かし、在来馬の保存・活用に関連するプログラムの展開も進めたい。

また、ハーモニイセンターの活動への理解を得て、広げていくためには、活動の効果、意義を測定、言語化し、伝えていくことが不可欠である。前年度から引き続き帝京科学大学の実施する馬の生態に関する研究への協力を行うほか、地域コミュニティづくりの社会実験へのプログラム提供など、大学等の研究機関、さまざまな課題に直面する子供達の支援を行う団体等との協働をしながら、調査研究に積極的に取り組みたい。

## 7. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

キャンプをはじめとするハーモニセンターの活動を広く知ってもらうために、機関紙、WEB サイト、ブログ、SNS 等を活用して、情報発信を行う。

あわせて、運営基盤の強化につながる広報のあり方を検討し、積極的に変革を進めたい。

### 7-1 機関紙「THE HARMONY CENTER」

会員、関係者、公的機関を対象に、月刊で 2,000 部を発行。

SNS全盛の時代にあっても、紙を媒体とした情報発信を続けることで、“ハーモニセンターを必要とする人”に届けることを目指す。まだハーモニセンターを知らない多くの人に、その活動を広めるため、配布機会を増やしていきたい。

### 7-2 WEB サイト・SNS の運用

キャンプなどの最新の情報を伝えるとともに、定款や決算など開示情報を掲載する場としてWEBサイト (<https://harmonycenter.or.jp/>) を運用。あわせて、より手軽に情報を発信し、情報交流を図るツールとして、ブログ、SNS (Facebook/Instagram) を運用する。

SNSについては常に新しいツールが提供されているため、対象や提供する情報により合致する新しいものも積極的に活用する。

### 7-3 パンフレット・チラシの活用

各事業所やイベント会場など、紙媒体が有効な場面は依然として多くある。必要に応じて内容をブラッシュアップし、有効活用を進める。

## 8. 各種セミナー等

過去キャンプ参加者やカウンセラーOB/OG にも子育て世代が多くおり、子育てに対する不安や悩みを抱えているという声を数多く聞く。そこで、これらの不安や悩みの解消につながるような講演会やイベント、他団体と連携して子育て改善につながるような事業を展開したい。この年度も、過去3回好評を得ている横浜市保育施設・りんごの木柴田愛子先生の講演会の実施を予定している。

また、前年度に行った「馬の多様な利活用を推進する講習会(日本中央競馬会特別振興資金助成事業)」も継続実施し、ポニーを用いた活動についての啓発、振興を進めたい。

## 9. 法人運営にかかる業務

### 9-1 職員等の研修

よりよい事業展開が行えるよう、担当業務、経験年数等に応じたさまざまな研修を年間を通じて実施する。また、国内外のセミナー、研究大会等に積極的に職員を派遣し、情報の収集・発信に努めるとともに、関連団体等との関係づくりを進める。合わせて、業務に関連する資格等の取得を推奨する。

## 9-2 会議等の実施

法人運営に必要な諸会議を適宜実施する。

- (1)評議員会 2024年6月
- (2)理事会 2024年5月・2025年3月(必要に応じて臨時理事会を実施)
- (3)運営会議 年15回程度
- (4)施設長会議 年12回程度

## 9-3 運営体制強化に向けた取り組み

将来にわたって良質な体験を提供し続けるだけでなく、さまざまな社会課題に対応した事業が展開できるよう、ファンドレイズや新たな施設運営受託に向けた調査など、中長期的視点に立った運営体制強化の取り組みを行う。

新たな取り組みの検討にあたっては、役員、職員、外部識者なども交えて適宜プロジェクトチームを組織し、より実効性を高める。

## 9-4 他団体との連携等

関連団体への役員・委員・指導者等の派遣や、運営協力を積極的に行い、馬の利活用や青少年教育の向上に貢献する。

役員等派遣	公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会・NPO法人自然体験活動推進協議会 NPO法人日本Gボール協会・一般財団法人日本ユースホステル協会 一般財団法人陽だまりハーモニー・馬という領域ネットワーク このほかに、依頼を受けて馬の調教や乗馬指導に関する指導者を派遣
運営協力	馬という領域ミーティング・公益社団法人日本キャンプ協会 大都市圏動物園事務主管者会議・NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会 河川流域交流会・馬を用いたセラピー療育研究プロジェクト 一般財団法人日本ユースホステル協会(馬の楽校) 認定 NPO 法人ハーモニカレッジ 任意団体ぽこぽっこ(牧場ようちえん ぽっこ)

## 9-5 日常法人事務

円滑な法人運営のため、以下の事務を滞りなく行う。アウトソーシングや新たなシステムの導入も積極的に進め、各事業所の負担を低減するとともに、効率的な運営を目指す。

- (1)事業執行管理
- (2)経営管理
- (3)人事労務管理・職員研修
- (4)会員管理
- (5)寄付金・助成金事務
- (6)渉外事務
- (7)庶務

## 取り組みの基本指針

私たちが提供する「思い出すだけで胸が熱くなる体験」は、単に楽しい思い出というだけでなく、その人がつらい思いをしている時にも心の支えとなるものです。すべてを投げ出してしまいたくなる時に踏みとどまらせることのできる、暖かい思い出や人のつながりをすべての人に届けることが、「Riding for All」の究極の目標です。

「Riding for All」をより広げるために、提供する体験の質をより高める、そしてそれを支える組織の強靱化と持続性を高める取り組みを行います。

## 取り組み

### ① より広い地域展開

- ・ 数年をかけて宿泊を伴うキャンプが行える事業所の開設を目指します
- ・ ハーモニセンターの得意分野を生かせる施設の運営受託に積極的にエントリーします

### ② より多様な対象に向けた事業展開

- ・ 医療的ケア児や登校をためらいがちな児童・生徒、社会的養護下にある子どもなどを対象としたスペシャルニーズプログラムに、専門家や関係団体の協力を得ながら取り組みます
- ・ 高齢者や、現在、直接の事業対象から外れている高校生を対象とする事業を検討します
- ・ 牧場の価値を高める「牧場ようちえん ぽっこ」の事業運営をサポートします

### ③ 青少年教育の発展への寄与

- ・ 日本の青少年教育全体の振興につながる取り組みをします

### ④ 人的・財務的基盤の強化

#### 人的基盤

- ・ 職員が必要なスキル・ノウハウを身に付けられるよう支援します
- ・ 長く働きたいと思える労働環境の構築を進めます
- ・ 持続性のあるカウンセラー制度を保ちます

#### 財務的基盤

- ・ 事業投資や職員の待遇改善につなげられるよう“稼ぐ力”の向上を進めます
- ・ ファンドレイジングを含む“支えてもらう力”の向上を進めます

#### ガバナンス強化

- ・ 計画推進に必要な事務局機能の強化を進めます
- ・ 信頼される組織として必要な良好なガバナンスの維持、改善に努めます

中期計画で示したのは、より多くの人にハーモニセンターの良質なプログラムを届け、「Riding for All」に一歩でも近づけようという意志です。その実現には、新しいポニー牧場や動物広場も必要ですし、そこで汗を流す職員やカウンセラーも必要です。全体としては、組織の拡大を志向していると言えます。

「拡大などできるのか？」という声もあるでしょう。しかし、現状維持をするためにできえ、年間数パーセントの成長は必須です。いずれにしても変化は不可欠なのだから、より多くのプログラムを、それを必要とするより多くの人たちに届けられるよう挑戦したいと思います。ハーモニセンターのよさをきちんと伝えることができれば、私たちのプログラムに参加したいという人はもっと増えますし、応援してくれる人や団体・企業ももっと見いだすことができるでしょう。目標は決して無謀なものではありません。

とは言え、その実現はたやすくはありません。社会や制度の変化に合わせてアップデートしながら、スキルを継承し、プログラムの質を維持向上させる。ハーモニセンターのよさを表現し、「支えてほしい」ときちんと伝える。職員一人ひとりが安心して働ける環境を整える。こういったことを同時に進める必要があります。どのタイミングでなにができるのかを見極めながら、各年度の事業計画にはより明確なアクションプランを示し、着実に進めていくことが求められます。

たくさんの方の努力や工夫が必要となりますが、多くの人に「思い出すだけで胸が熱くなる体験」を提供し、そのことを私たち自身も楽しみたいと思います。そして、私たちの活動に多くの人に参加してもらうことで、「ハーモニセンターが大好きだ」という人が増え、次の活動の担い手（職員・カウンセラー等）、支え手（支援者・協力者）を生み出していくという好循環を作っていきましょう。

公益財団法人ハーモニセンター  
代表理事 村松真哉

これは「公益財団法人ハーモニセンター中期計画 2024-2028 ～Riding for All をさらに広げる～」より一部抜粋、編集したものです。計画全文は、公益財団法人ハーモニセンターWEBサイトでご覧いただけます。